

# 市民文芸

## 歌壇

岩崎 聰之介 選

夜泣きする声のこのところ聞かざれど男の子なるらし今日笑ひ声聞く 石田みどり  
 草焼きし跡くろくろとつづく土手雨細やかに 大槻 きよ  
 きらめきそぞぐ 八嶋 正子  
 旅先の写真に見入れば逝きし人多かりてさびし籠り居るけふ 高子うこん  
 大正に生れたる吾は亡父亡母の齢を遙か越えて生き居り 平間 久子  
 吹き荒るる粉雪の中昇り行く朝日は絶えず見えかくれする 鈴木 茂子  
 春告ぐる風まだ寒し職退きて気楽なれど寂しさをのびく 齋藤 典子  
 仲間らと自治会のビジョン語るとき団塊世代の活気みなぎる 寺崎 悦子  
 椿の芽いろ淡淡とふふみゐるて凍てつく今朝をじつと耐へる 大庭 良子  
 携帯の呼び出す音が二度三度置き忘れてる君の分身 四電 英夫  
 轟音を残しシャトルは飛び立てり夢と希望と期待を乗せて 三首目、四句切れのうた。残された者の感慨が出ていよう。

## 俳壇

遠藤 秋尾 選

こんなにも小さき靴あと雪の道 山家 弘子  
 焼山の黒々として夜を待つ 跡部祐三郎  
 雨ごとに目覚めし丘や嫁菜摘む 岩澤 伍峯  
 ふつつつと滾る湯の香や涅槃雪 寺崎 悦子

# 風間市長の風

## 「一丸」

3月に開催されたWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）では、「侍JAPAN」が2連覇を達成しました。皆さんもドキドキしながら見ていたことと思います。特に韓国代表との5度にもわたる対戦は、見応えのあるゲームばかりでした。世界一になるまでには、さまざまなドラマがありましたね。原監督がインタビュで「オールジャパンで戦った勝利です！」と答えていたのが印象的でした。前回の世界一を勝ち取った後ですから、想像以上のプレッシャーがあつたと思います。

日の深夜から放映されています。ますます人気が出て、白石を訪れる人が多くなる予感がします。小十郎関係の商品も増えました。例えば、小十郎プロジェクトが販売元にビジュアルして売り出した「小十郎甲冑フィギュア」や、白石市文化体育振興財団が企画販売している「小十郎扇子」など。これからは生鮮食品にも小十郎公の名が付いた商品が出るとのこと。小十郎公が白石を活性化してくれている気がします。さ

らに「ボチ武者こじゅーろう」が宮城県代表として、むすび丸と共に「ゆるキャラ図鑑」に掲載されるなどしています。官民共にアイデアを出し合いながら、白石に活気を取り戻すため活動しています。それは商品開発だけではなく、住民が憩える花見山のような里づくりにも力を入れているところもあります。人が動いています。人が育っています。誰かに頼らず自らの力で活躍しています。生き生きと輝きを放ちながら楽しんでる人たちがあふれていることは、心強くうれしい限りです。白石に活気を取り戻すという「義」のために、これからは共に支え、応援していきましょう。一丸となつて！

### 「4月号の答え」

日本の制服集団のしりは「新撰組」だったといわれます。山形になった、だんだん模様の羽織を着た新撰組のスタイルは「仮名手本忠臣蔵」の芝居の衣装をまねたものだそうです。

## 柳壇

四電 英夫 選

大空を明るく染めて梅の花 高子うこん  
 東風強し電車停まるも風物詩 齋藤 典子  
 きらきらと野の明るさや蝶の舞 岩松 隆志  
 短冊の墨の匂ひや梅の花 服部 忠孝  
 萌黄色心弾みぬ露のとう 福原 峯子  
 折紙の雛を吊るしてケアハウス 跡部 祐子  
 三句目、春は名のみ風の寒さよ。それでも一と雨ごとに草々が青みを帯びてくる嫁菜（野菊の若菜）も伸びてくる。摘んでお浸しにでもいかが。

二句目、山焼は春の季題。全山黒々と焼かれた山に夕暮れが迫ってくる。夜を待つてるようだ。

三句目、春は名のみ風の寒さよ。それでも一と雨ごとに草々が青みを帯びてくる嫁菜（野菊の若菜）も伸びてくる。摘んでお浸しにでもいかが。

二句目、冬將軍は気まぐれ。行きつ戻りつ春に向かう。しかし近年厳しい寒さは長続きしない。手放して喜んでいいものか。三句目、恵まれすぎると、逆に不満が多くなるのが人情。あの頃を知る人が少なくなつたのが寂しい。「不自由を常と思えば不満なし」



# 国際コーナー

## International Corner

### Take the stairs「階段を選びましょう」

母国オーストラリアでは、日本と同じようにさまざまなダイエットが話題になっています。炭水化物を取らない、夕食を抜く、バナナダイエットなど、本当に多種多様。確かに効果はあるのですが、怖いのは「リバウンド」。成功して安心すると、また少しずつ甘いものを口にして、結局また太ってしまう人も多く聞いています。

何を隠そう私も、3食ダイエットで何度も「瞬間的」に成功したことがあります。3食の間におなかがすいたとき、お茶かお水を飲むのは構いません。でも、ほかのドリンクはダメ！ ちなみにこの3食ダイエットは、とても体に悪いということで、お勧めできません。以前、ある人から「おなかがすいたら、素直に何かを食べればいい。『体の充電が必要ですよ』と、おなかが呼び掛けてくるのだから、その声に従えばいいじゃないか」と言われたことがあります。確かに、それは本当だと思います。現代人は、仕事やジムなどの不自然な生活形態の中で、体の声が聞こえなくなったのではないかと思います。

少し、日本とオーストラリアの文化の違いを比較してみましよう。オーストラリアの小中学校には、給食とい

う制度がありません。各自が栄養やカロリーの管理を行っています。日本では、多くの子どもが自転車通学に通いますが、母国では自転車に乗るのは、遊びかスポーツするときのみ。ほとんどの子どもたちは、バスや電車、両親の車で学校に通っています。ですから私たちは、部活や給食、自転車通学といった日本の文化を目の当たりにすると「日本では、ダイエットする必要がないのでは？」と思うぐらい、日本の方々体が動かしていることに驚かされます。

研究者によれば、ダイエットしようにも、おいしいお菓子や、自分が動かなくても良い優れた機械などが次々と出てくるため、いわゆる「メタボ」が増えているとのこと。皆さんはどう思いますか。車で、エレベーターを毎回使いますか？ 近くのコンビニまで、車でいきますか？ ほんの少しずつですが、こういった運動の積み重ねを大切にダイエットに励むと、きっと以前より丈夫な体ができるのだと思います。バナナダイエットも、とても良いことだと思いますが、まずは、今度デパートや駅に行く時、階段を選んでみませんか？

# まちの話題

## ～あの日、あの時～

### 第10回つくし公園まつり

4月5日、毎年恒例となった「つくし公園まつり」が開催され、子どもたちからお年寄りまで、日ごろ公園を利用している多くの皆さんが参加しました。

今年で10回目を迎えるこのお祭りは、毎年4月の第1日曜日に開催。田町自治会や老人クラブ田町相生会、あしたば白石、碧水園の利用者などで構成する「つくし公園運営委員会」が主催しています。

この日集まった子どもたちは、白石陽光園から寄付された花の苗100株を植えた後、紙芝居やゲートボール、特設の駄菓子屋での買い物など、家族で手作りのお祭りを楽しんでいました。

風間市長も参加し、「年齢を超えたふれあいができるのも、このようなお祭りがあるから」とあいさつし、参

加した子どもたちと一緒に花の苗を植えました。暖かな春の日差しの中、参加した皆さんは本当に楽しそうでした。



▲元気に育つことを願いながら花の苗を植える参加者